

地域を支える 外国人材

少子高齢化や人口減少が進み、働き手の確保が全国的な課題になっています。能代市でも、さまざまな業種で人材不足が続く、外国人材を受け入れる事業所が増えています。地域の仕事を担う人が不足する中で、外国人材は地域の産業や暮らしを支える新たな担い手となっています。

外国人材が活躍する場合は、製造業や農業、建設業、介護・福祉、飲食、サービス業など多岐にわたります。そこで働く一人ひとりが、地域の産業を担うだけでなく、インフラの整備、介護や福祉、物流など、私たちの生活を支える仕事にも携わっています。

人が暮らし続けるためには、その地域で働く人が必要です。地域の産業やサービス、社会基盤を維持していく上で、外国人材の存在は年々大きくなっています。

外国人材は「人手不足を補う存在」とどまらず、地域の経済や日々の暮らしを支える、なくてはならない存在になりつつあります。



地域を支える
大切な仲間です

外国人と地域をつなぐ 「多文化共生拠点」

外国人とみんなが
つながる場所です！

巻頭
特集

ともに生きる、ともに支える。多文化共生



外国人が地域で安心して暮らし、地域とつながる場として、市では「多文化共生拠点」の実証的な取り組みを始めています。運営は一般社団法人COCOROに委託し、週3回程度オープンしています。

拠点では、外国人が暮らしの中で抱える悩みや困り事の相談に応じるほか、気軽に立ち寄って交流できる場づくりを進めています。

スタートに当たっては、運営に携わる皆さんが自ら拠点づくりにも取り組みました。初日には障子張りを行い、地域の文化に触れながら、外国人と地域住民が自然に交流できる空間をつくっています。まずは11月までの3カ月間、実証実験として運営します。

外国人や受け入れ企業、地域の方が困ったときに相談できる場所であると同時に、立ち寄って人と話せる場所へ。外国人と地域の人が顔を合わせ、互いを知るきっかけとなる交流拠点を目指します。

▼場所 能代市畠町13-10

▼開設時間 10時から18時または13時から21時

※開設日及び開設時間は、インスタグラムでご確認ください。

▼問合せ 総合政策課

TEL 89・2209

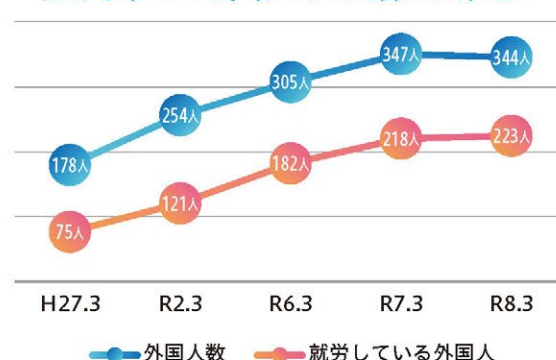


地域で働く外国人が増えるということは、地域で暮らす外国人が増えるということでもあります。仕事をすることで、地域で生活し、買い物をして、地域の人の関わりながら日々を過ごしています。外国人が地域の産業を支える一方で、地域で暮らす一人の住民として、まちのつながりを築いています。

これから大切なのは、お互いを地域の一員として認め合うことです。違いを理解し、それぞれの文化や考え方を尊重しながら、困ったときには支え合い、地域の課題には共に向き合う。外国人も日本人も、安心して暮らし、それぞれの力を生かせる地域をつくっていくことが、多文化共生につながります。



能代市の外国人住民数の推移



言葉を学び、地域とつながる

長年、外国人に日本語を教えるながら、日本で暮らすために必要なことを伝えてきた北川さん。日本語教室での交流を通して、外国人と地域とのつながりを育んできました。外国人と共に暮らすために大切なこと、そして能代だからこそできる多文化共生について伺いました。

能代で日本語教室を始めたきっかけは、中国残留孤児の帰国家族が能代にきたことでした。最初は軽い気持ちで引き受けたという北川さんですが、今では日本語教室を、外国人が地域で暮らしにくくするために欠かせない場所と考えています。

「日本語教室は、ただ日本語を勉強する場所ではありません。能代で暮らして、生きるため、人を育てるための教室だと思っています」と北川さんは語ります。

教室では日本語だけでなく、ごみ

の分別や時間を守ることなど、日本で生活するために必要なルールやマナーも伝えています。活動を続ける中で、地域の人たちの外国人への見方にも変化を感じているといいます。

「礼儀作法も教えているので、教室に通っている人なら安心と思ってもらえるようになりました。高校生のボランティアも増えて、交流の輪が広がっています」。

外国人と地域で暮らすうえで大切なのは、一人の人として向き合うことだといいます。

日本語は世界でも難しい言語の一つ。その言葉を学んでいる外国人の頑張りを知ってほしいと話します。

「能代の人たちは思いやりがあって優しい人が多い。その優しさを外国人にも届けてほしい。外国人が少なくない能代だからこそ、できることはたくさんあると思います」。

のしろ日本語学習会
代表 北川 裕子さん

週2回の日本語講座や交流事業を実施し、長年外国人支援に取り組んでいます。

3 独立行政法人地域医療機能推進機構(JCHO)秋田病院

令和8年8月より、インドネシアからの8人を特定技能(介護)として受け入れています。受け入れに当たっては、患者さんにも丁寧に説明しながら体制を整えてきました。

「礼儀作法や生活上のルールも丁寧に伝え、安心して生活できるようサポートしています。明るく礼儀正しい人柄もあり、8人は患者さんにもすっかり溶け込んでいます」と看護部長の京谷さんは話します。地域医療・介護を支えるために始まった受け入れは、人材確保にとどまらず、地域の方々と外国人材との新たな交流を生み、病院に笑顔をもたらしています。



能代での暮らしを、もっと楽しみたい

日本に来てまだ2カ月。インドネシアから看護補助者として働く8人は、能代での暮らしにもなじんできています。「スタッフや患者さんが優しく、とても働きやすい。生活面もサポートしてもらい、安心して暮らすことができます」。

「患者さんとの交流も、楽しみの一つです。日々の会話の中で、患者さんが能代弁を優しく教えてくれます。少しずつ覚えて、もっと話せるようになりたいです」といい、人との交流を重ね、能代での新しい生活を楽しんでいます。



市の取り組み



地域活性化企業人
仁井ひなさん
令和7年4月に就任し、外国人材と地域との交流などに取り組んでいる。

City initiatives

市は、外国人材が地域の一員として安心して暮らし、働くことができる環境づくりを進めています。その取り組みの一環として、地域活性化企業人の仁井さんが、外国人材と地域住民をつなぐ活動に取り組んでいます。

交流イベントなどを通して、外国人材と地域の人が顔を合わせ、互いの文化や考え方を理解する機会を創出することや、地域団体や事業所とも連携し、多文化共生を地域全体で考えるきっかけづくりにも力を入れています。

「外国人材も地域をつくる仲間。人と人とのつながりを、能代にもっと広げていきたい」。

仁井さんの活動を通じて、国籍や文化の違いを越え、誰もが地域の一員として関わり合えるまちを目指します。

外国人材と地域をつなぐ

地域活性化企業人
仁井ひなさん

日本語学習アプリ「NihonGo!Cafeのしろ」

市内在住もしくは市内企業で就労予定の外国人に対し、日本語学習アプリ「NihonGo!Cafeのしろ」を提供しています。

日本語学習ツールに加えて、オンラインレッスン、日本語検定試験対策、特定技能試験対策もできます。
※詳細については、ホームページでご確認ください



外国人材の受け入れや外国人の暮らしや交流を支援するため、市ではさまざまな取り組みを行っています。詳しい情報は二次元コードからご覧ください。



▶ いずれも ▶ 問合せ 総合政策課 TEL89-2209

実際の現場を

のぞいてみた!

インタビュー

Interview

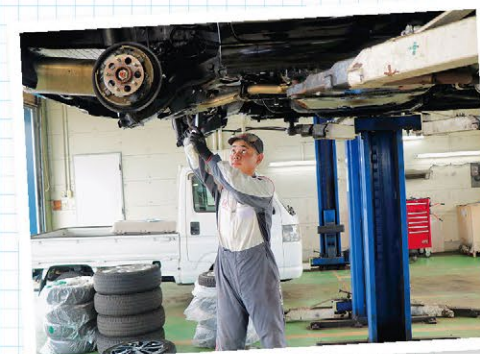
1 Honda Cars 秋田県央 能代東店



働き手の確保を目的に、現在3人の外国人材を採用しています。現場では、外国人材が欠かせない戦力として活躍しています。副社長の千葉さんは「外国人の皆さんは、日本に強い覚悟を持って来ています。その分、一生懸命勉強して、とても真面目に仕事をしてくれます」と話してくれました。また、外国人とのコミュニケーションが増えたことで、職場が明るくなり、社内の雰囲気にも変化が生まれたそうです。

働きやすい職場でスキルアップ

自動車整備の技術の取得を目的にベトナムから技能実習生として来日したチュックさんは、「優しく仕事を教えてくれるので、安心して働くことができます。能代の皆さんは優しいし、自然も多いので、すごく住みやすいです。自動車の整備をもっと勉強したい」と笑顔で話してくれました。



技能実習生※10月から特定技能(自動車整備)へキャリアアップ
ダン・ディン・チュックさん

2 株式会社 ネクサス

昨年、インドネシアから8人を受け入れています。栽培から収穫、梱包まで、ネギづくり全般の作業を担い、今では職場を支える欠かせない戦力となっています。社員の田中さんは「仕事を覚えるのも早く、勉強熱心で、一生懸命取り組んでくれています。今では、なくてはならない存在です」と話します。

農作業では、複数人でチームを組んで作業することも多く、コミュニケーションが重要になる場面もありますが、「日本語でしっかりコミュニケーションが取れるので、チームでの作業もスムーズに進んでいます」。外国人材が農業の現場で一つひとつ仕事を覚え、地域の農業を支える大切な担い手となっています。



特定技能(農業)
アフマト・ファウジさん

能代で学び、未来の農業につなげたい

インドネシアから日本に来たファウジさん。能代でネギの栽培や収穫などの仕事に取り組みながら、日本での生活にも慣れてきました。

日本語や漢字の難しさを感じながらも、仕事を通して言葉を身に付けています。「特に漢字は難しいですが、一生懸命勉強しています。将来は、能代で勉強した農業の知識や技術をインドネシアで生かしたいです」。能代で働き、暮らしながら学んだ経験を、いつか故郷の農業に生かす。ファウジさんは、未来を思い描きながら、地域の農業を支えています。

